



ちょっと息抜きしたい時は、 今どきの「ホカンス」

気軽に旅行に行くこともなかなか難しい今、韓国では以前から流行っていた「ホカンス」が再び注目を集めています。「ホカンス」とは、「ホテル」と「バカンス」の合成語で、有名スポットを巡る観光旅行とは少し違った、ホテルでのんびりしながら休みを楽しむことを意味します。「休憩こそ最高の休暇」という認識が広がっているとも言えるでしょう。

いつでもできるちょっとした気分転換

ホカンスの魅力は「遠くまで行かなくても休暇気分を楽しめる」です。一般的な観光旅行は飛行機や列車、レンタカーなどの各種予約、旅行コースやグルメ、現地情報の調査など、準備だけで疲れてしまう時もあります。しかし、ホカンスはそういう手間がほとんどかかりません。1泊するホテルを選ぶだけです。普段はあまり泊まる機会のない市内の高級ホテルでも良いし、おうち近くのホテルでも良いです。家ではない「プライベートな空間で過ごす1泊」がポイントなのです。



▲本を読みながらバカンスを楽しむブックカンスもあります
[写真 : gettyimagesbank]

ちょっと息抜きしたい時は今どきの「ホカンス」

あるリクルート会社が社会人を対象に2020年の夏休み計画を聞いたところ、全体の約20%が「ホカンスを楽しむ」と答えたそうです。新型コロナウイルス感染症の影響もあってプライベートで快適な空間で休暇を過ごしたい人が多くなっているようです。ホテル側は客を引き寄せるために様々なホカンスパッケージを出しています。高級レストラン食事券が付いたパッケージからスイーツやワイン、チーズを客室で楽しめるパッケージ、シェフの料理付きホームパーティープラン、子供向け体験型プログラム付きパッケージ、新婚夫婦向けのスナップ写真撮影サービスなど、利用者のニーズに合わせた宿泊商品を販売しています。ホテル業界ではコロナで陥った売上げがホカンスブームをきっかけに良くなることを期待しています。

日常の記憶、心の傷から逃れたい時に「ホカンス」を

なぜ、ホカンスは流行っているのでしょうか？韓国の小説家、キム・ヨンハ作家はその理由について「家には日常の悩み、憂いがある。家でぼっとしていても洗濯機が目に入ってしまうと、洗濯しなきゃと思うてしまう。色んな心配事もある。日常の記憶、心の傷から逃れたい時は近くのホテルでも充分かも」と言いました。たまには慣れている空間から脱して新しい空間で息抜きすることも良いかも知れません。



作成者 北九州市韓国国際交流員 姜 志守 (カン ジス)

春は小倉城の桜と河内藤園、夏は若松のアジサイと関門花火大会、秋は河内貯水池ともみじ谷の紅葉、冬はイルミネーションを楽しみながら北九州で生活中◎